

第九...

1343

軍令部長

第一局

佐

主事

校合

淨寫

發付所

三月九日

年月日

主務

立案者

大臣

次官

軍務局長

第三課長

第一課長

課僚

電令案

海門修理ニ應急ノ工事ヲ施行スヘシ

明治二十九年三月十九日

海軍大臣

佐鎮司長

海

軍

海軍九二六号



電報

三月十七日午後七時四十五分

西郷少将宛 禁山佐然の電文

了行内閣改造 海軍の 防衛 完全 概
理 百四十の 補 急 何 百の 要 欠
何しニ 着 手 ス ハ キ ヤ

海 軍



軍令部長 

第一局 

主事

淨寫 
校合 

發行海
五月九日 

年月日 主務

立案者


大臣




次官



軍務局長 


第三課長 

第二課長 


第一課長 

課僚 

經理局長 

第二課 

指令案

第二課 

佐第一三六九号ノ三軍艦海門改造新設及

船隻會審ノ件 認許ス

但裝帆改造ニ前審モ縦帆ニトシ桁ノ信号用トシテ二本ノ之ヲ
備フヘシ又本艦ハ本年九月就役セシムル豫定ニ付八月中ニ結了シ

1345
1345-2

三六二

志

軍令部長 

第一局 

主事 

淨寫 

校合 


發行海

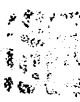
五月九


年月日

主務

立案者

軍務局長 

第三課長 

第二課長 


第一課長 

課僚 

大臣 

次官 

經理局長 

第一課 

第二課 

指令案

佐第三六九号ノ三軍艦海門改造新設及

船増備件認許ス

明治二十九年五月 日

1345
1345-2

海軍省
軍務局長
佐藤 虎次郎

シ
7
1877

八

印

印

印

軍令部意見に依りて少将令案を
但書を加ふる旨再及らるる旨付
申付

軍務局長 三浦

各々
経理
不
了
旨

印

軍務局長 三浦
第一軍
第二軍

1346

計 目

得几丈ノ工事ヲ施行シ其他陸上ニ於テ準備ニ他日ヲ待テ施行
行ニ得几様取計ヲ

明治三十九年五月廿九日

内訳

金壹万三千八百八圓 修理及造費

金壹万五千八百圓 小笠原船三隻製造費

金千四百四拾圓 船四隻又製造費

合計金三万五千六百八圓

日 本 船 隻 出 立 帳 目

大 正 十 三 年 五 月 廿 六 日

本 船 出 立 帳 目 一 覽 表

附 記

本 船 出 立 帳 目 一 覽 表 及 修 理 費 用 一 覽 表 一 覽 表

金 五 百 三 十 八 兩 八 分

修 理 及 運 送 費 用

金 五 百 五 十 八 兩 八 分

十 三 號 船 隻 運 送 費 用

金 五 百 四 十 四 兩 八 分

和 船 運 送 費 用 一 覽 表

金 五 百 三 十 五 兩 八 分

第一三九九號

第三課

軍艦海門改造新設等義上申

所管軍艦海門、小蒸汽船増備外十條改造
新設等男爵坪井常備艦隊司令長官より
別紙理由欄、抄記之通り、之要求相受より
調査之必要に相認、後条御認可相成
度、工事方按系、同面等別紙目録之通り
相添此殿上申之也

明治三十九年五月八日

佐世保鎮守司令長官 柴山 矢八



海軍大臣 佐野 從道 殿

軍艦海門改造新設工事方按等調書
一不蒸氣船壹艘ヲ増備シ壹艘ヲ引換其ツカビツ止ラ
改造スル

理由 壹艘ニハ不蒸氣ニ依リ更ニ壹艘ヲ増加シ其後

未滿付ノ分ハコトデキルニ附著セザルニ爲リ長時間

ノ航行ニ堪ヘズ測量事業ニ適セス又従来ノ

ツカビツ止ラ流離搭載ノマ、揚卸スルヲ能ハス

不適ナリ

方按 圖面及方法書、如ク製造シ且ツツカビツ止ラ不蒸

氣船ノ重量ニ適スル様改造ス

此方取安徑前通リ爲レ五ク
三十二年十月官房一七六号 陽研

軍艦海明改造新設工事方按等調書

一、不遂氣船壹艘ヲ増備シ壹艘ヲ引換且ツガビツ上ラ

改造スル

理由 壹艘ニテハ不足ナルニ依リ更ニ壹艘ヲ増加シ且ツ従

来備付ノ分ハコトデキリ附著セリル為リ長時間

ノ航行ニ堪ヘズ測量事業ニ適セス又従来ノ

ガビツ上ニ流箱搭載ノマ、揚卸スルノ能ハズ

不適当ナリ

方按 圖面及方法書、如ク製造シ且ツガビツ上ハ不遂

氣船ノ重量ニ適スル様改造ス

二、ケパスラニラ廢シケムウイニドラムヲ装置スル

理由 ケパスラニハ方今大、破損シ後來永ク使用、

毎

一ノ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ

新
興
寺
別
傳
(序)
卷
之
八
抄
①

1352

X
○

場へナル者ナレバ此際之ヲ改メ「スケームワイ」
ドラムヲ備へハ測量船ノ出入及測量事
業ニ便宜ヲ得ル大ナリ

方按「スケームワイ」ドラムヲ在来ノ「ケボスタ」ニ位置
設ク

工事日子二百四十日 入費概算金貳千八百円

三、水罐増設

理由 在来ノ水罐ノ蓄量充分ナラス屢々不便ヲ
感セリ

方按 九リ一噸入ノ鐵製水罐三個ヲ造リ後部
在来ノ水罐場ニ格納ス

工事日子四十日 入費概算金三百六十円

四、装帆装置改造

理由

一、本船の従来ハバリの装置之處航海中傾斜甚シキ為ノ製造以來十余年間統帆ヲ長シ航海シタルハ事ニ付此装置ノ贅物ニ屬シ且倉庫狭小モラ諸帆索ノ豫備ヲ充實スルヲ得ス然レ本船ノ如ク改造スルハ後来少カラキハ費用ヲ省シ得ルニナラス諸帆索ノ豫備モ亦減スルヲ以テ従来充實スルヲ得リリシモノモ充實シ得

二、第一項ノ記載ニタリ如ク不蒸氣機ヲ改造シ且其教ヲ増シ又測量船ヲモ積ミ其代リ大砲ノ教ヲ減シ端ハ三隻ヲ廢スルトキハ重量ハ高所ノ増シテ所ノ減ス故ニ總重量ハ改造ノ

毎頁

五、測量和船四隻新規備付

前後に於て其よりナキモ重心心矣、高所之變
 移セザルヲ得ス是レ本艦ノ最モ忌ム所ナリ
 然レ本艦、如ク改造スル中ハ檣桁檣樓
 帆、動靜索具等或ハ廢シ或ハ小ニスルヲ得
 ンガ故、高所ノ重量ノ著セリト被スル事ヲ得

方按第三箇、通リノバーケタイニ形、改造

工事日子百八十日、入員概算金四千貳百円

理由、従来台湾測量ニ使用シタル測量船ハ大過

キ本艦、搭載スル能ハズ且ツ該地測量事

業ニ稍大ニ過キ却テ不便ヲ感ス故ニ稍ナ形

ノモノ新造ヲ要ス

方按別紙箇面方法書等、如ク製造ニ格納位

12 形手 遺 得 櫻 1 夏

振呈大書別巻
金千九百四拾
四

1356

置等二第一圖及第二圖ノ通りニ後部ニガボツ
止ニ對改造

六舷梯装置改造

理由本艇ノ舷梯ハ外方ニ向ヒ振ルヲ以テ是迄ハナイニ

ヤード上ニテローケルヲ掛ケ出し入レシタシ此ノナイニヤード上

ナキハ舷梯ノ出し入レニ困難ナルノミナラス動モ

ニハ諸所ニ觸レ損傷ノ患アリ

方按別紙第一圖ノ通り舷梯ニ沿ヒ昇降スル様

ニナシ且ツ揚卸、為ナリガボツトノ新設

工率日子四十日 入費概算金四百拾圓

此ノ爲メ前部ノ新設ニ至ルニ必要ナル材料

蓋を掃除機ナシトシハト出テシテ改メ
コトハス
之ノ一年一月官房七十六号ニ記シ

置等第一圖及第二圖ノ通りニ後部ニガボツ
止ニ對改造

六 舷梯装置改造

理由 本船ノ舷梯ハ外方ニ向ヒ長ルヲ以テ是迄ハナイシ
ヤードニテロークニ掛ケ出シ入レシタシ比ハナイシヤード
ナキハ舷梯ノ出シ入レニ困難ナルノミナラス動モ
エバ諸所ニ觸レ損傷ノ患アリ

方按 別紙第一圖ノ通り舷梯ニ込ヒ昇降スル様
ニテ且ツ揚卸、為メガボツトニ新設

工事日子四十日 入費概算金四百拾圓

七 船橋ヲ前部ニ新設シ蒸汽舵機ヲ備ヘ従来ノ舵
輪ハ豫備トシテ保存シ置キ新船橋ヨリハ機室
舵輪及其他ノ要所ハ傳令管及ヒテシケラフヲ

備フル

理由 従来、廻橋の後方に在り且其位置はナカ
 為ノ相突及ヒ端舷に遠ク設セラシ前面ヲ見
 通スニ困難ナリ然ルニ若ホ測量船ヲ搭載スル中
 ハ舷ト全リ前面ヲ見通シ得サルニ因リ遂ニ流
 舵機ヲ備フルハ一ハ測量船用舟夫ヲ乗船セ
 シメ水兵若干名ヲ付スル見込ナルヲ以テ人力
 ヲ省クニ在リ又新廻橋ト従来、舵輪トハ巨
 大遠クシテ不便ナリ且前部ハ場所狹隘
 シテ普通、舵輪ヲ備ヘ難シ
 従来、舵輪ヲ保存シ置クニ遂ニ流舵機損シ
 タル中豫備ニ備フルニ為ルニテ傳令管ハコグライ
 ヲ備フルハ言令通徹シ難キ故ナリ

X

方按第一圖通り船橋前檣後部に新設の必要
、箇所ニテレグラフの傳令管及舵取車ヲ設リ
蒸氣舵取機、中甲板蒸氣機室入口後部に設
ル

工事日子二百四十日 入費概算金五千五百圓

八丁ミズシヤ子ルポートヲ廢し外舷上部にミズコリヲ設
ク因締ス

理由第一等ニ「カ」タリ上下ノ際「ヤ」子「ル」ポート

突出シアル為ニ船側ヲ之レ「欄」動モスハ損害
ヲ受ク故ニ多人數ヲ「ケ」エ「レ」ニ配シ船ヲ押出スモ
本船傾斜甚リハ動揺スル中ハ舷ノ重量ニ堪
エズ屢々損スル「ア」リ且ツ該兩舷ハ航海中
救助艀ニ充「レ」ラ「シ」テ萬一風波荒キヤ於テ

海軍省

又レラ上下云々、必要起ル中ハ極テ危険ナル虞アリ

方按「クヤ」子ルパレト「テ」廢シ「レ」ユラ「ド」外舷上部

取付在、如ク是時、釣床格納ノ數ヲ減スルヲテ別々其格納箱ヲ設ケ

工事日子廿日 入費概算金二百二十円

九士官寢室上「」テ「ト」ライ「ト」ヲ設ケル

理由 本船ハ舷側厚リ舷窓ナシトシテ室内暗キガ為ソナリ

方按 三角碇子ヲ上甲板ニ設ケ各士官室、明リテ取ル

工事日子十五日 入費概算金三十一円

十七梅碇壹門及十二梅碇二門ヲ減シ碇身及碇架ハ

陸揚スト雖モ有事ノ際ハ直クモ搭載使用ニ得
ル様為シ置ク事

理由 測量船四艘、搭載ヲ必要トスル故ニ上甲板
ノ重量ヲ減シ其ノ積載ノ餘地ヲ得ルガ為ナリ
十一、四ノ子一ス「カッター」各隻及「カル」一「志隻」ヲ廢
スル事

理由 四ノ子一スヲ減スルハ不測ノ氣船志艘ノ増備ヲ要スル
ヲ以テ其積納場ヲ得ルガ為ナリ又「カッター」其他ヲ
減スルハ測量船搭載ノ場所ヲ要スルト又測量
船ヲ搭載スル中ノ端船ノ代用ヲモ併セテ候ズルガ
為ナリ

今中三ノ中ノ三ノ内ノ修め候事
是事ハ中ノ修め候事ト見

海軍省

軍艦海門用小蒸汽船貳艘
製造入費概算

一 金八千六拾圓

小蒸汽船貳艘製造費

内

金貳千六百圓

船体部

金五千圓

機関部

金四百六拾圓

是備品

一 金貳千五百貳拾圓

タコト及附属物共

合計金壹萬五百八拾圓

一 二車日子

貳百四拾圓

海

軍

<p>軍艦海門測量和船四艘</p>	<p>製造入費概算</p>	<p>一金九百六拾圓</p>	<p>和船四艘製造費</p>	<p>内</p>	<p>金七百八拾圓</p>	<p>船体部</p>	<p>金百八拾圓</p>	<p>定備出</p>	<p>金九百八拾圓</p>	<p>カゴト對改造</p>	<p>合計金千九百四拾圓</p>	<p>一工事日子</p>	<p>百貳拾日</p>
-------------------	---------------	----------------	----------------	----------	---------------	------------	--------------	------------	---------------	---------------	------------------	--------------	-------------

海軍

本艦改造新設工事中前橋ハ横帆ヲ廢シ縦帆
 ノミニナレシ信号用トシテ二本ノ桁ヲ備フルノ外ハ
 他ニ異存無シト虽モ軍艦配備上ノ都合ニヨリ本
 年九月就役セシムラル豫定ニ付今回ハ来ル八月
 中ニ必ズ竣工シ得可キ工事ヲ便宜着手シ其他
 工事ハ他日ヲ待テ施行シ得ル如ク準備スルテ致
 度依テ御指令案中認許スノ下ニ尤ノ如ク追加ア
 リタシ

但シ装帆装置改造ハ前橋モ縦帆ノミトシ桁ハ
 信号用トシテ二本ノミヲ備フベシ又本年九月ニ
 ハ本艦ヲ就役セシムル豫定ニ付八月一杯ニ於テ出
 来得ル工事ノミヲ施シ他ハ陸上ニ於テ準備シ

海 軍 部

他日ヲ待テ施行ニ得ル様取斗フベシ
追テ製回室新設ニ得ル見込アルヤ調査セシメ
ラレ度

廿九年五月廿六日

海 軍 部

官房
二七〇八

軍令部長
圖

第一局

主事



校合

淨寫

發付
海

六月廿日

年月日

主務

立案者

大臣
次官



軍務局長

第一課長



第三課長

課長



經理局長

第二課長



指令案

電信

海明製回室外三庫新設改造ノ件認
許ス

明治三十九年六月廿日 海軍大臣

佐鎮司令長官

海軍

佐第一八一三號

第三課

軍艦海門改造新設ノ義ニ當申

所管軍艦海門改造新設ノ義同艦長ヨリ

別紙理由ノ撰、抄書之通、具申致シ候旨

調査セシメ候處、必要ト相認メ候條、御認可

相成度工事、方按テ、圖面等相添、此段

高申仕立也

明治二十九年六月廿二日

佐世保鎮守府司令長官柴山英

海軍大臣後爵西郷從道殿

追テ本件改造等御認可、上之レ、俾ヒ生カ

べき備品ノ増減モ可有之候得共是等ハ其筋ノ
 要求致スバク且本件ハ之事、都合有之候
 何分ノ義電信ニ以テ、拮合相成ノ様、致度
 此段、副申上也

軍艦海門改造新設工事方按等調書

一製圖室新設

理由 本艦ニ從未製圖室ノ設ケナカリモ測量ヲ為スコ
當リテハ實際此新設ヲ要ス

方按 別紙第一回面ノヤリ後部副長室ト海圖室
間ノ區劃ヲ取除キ之レヲ製圖室トナシ製圖用
ノ机等ヲ備ハ舷窓斗箇ヲ設ケ且在來寢臺
等ハ其儘ナシ置キ測量士官ノ用ニ供ス
副長室ハ舷側物品格納所ナリト知ル新設
ニ寢臺窓等ヲ設ケ海圖室ハ前艦橋後部
ニ第二回ノ如ク新設シ又物品格納ヲ為艦尾
樓前端ニ相リ設ケ

心スレ
國庫
先用
報臺
ス
政
部
姫尾

1371

國庫
先
用
報
臺
ス
政
部
姫
尾

工事日子六十日

入費概算金八百貳拾円

二大橋、前面に沼ヲテ小コテリツクテ新設

理由本艦帆樫改造ニテリシニ付テハ重量ナル物品積

卸シテモコレトアニカル使用場合ニ於テ揚收

為メ必要ナリ

方按斗頓以内ノ重量ニ耐スマキ木製コテリツクテ新設

ケ之レ、附属スル滑車綱具ヲ供ス

工事日子三十五日 入費概算金四百八拾五円

三浴室に区劃ヲ設ケ浴室ヲ分離スル事

理由本艦浴室ハ一室ノ内ニ二槽ヲ設ケテ了艦長ヨリ

下士卒ニ至ル迄一所ニ雑浴スルニ便アルヲ以テ各

槽分離ヲ要ス

方按別紙圖面ノ如ク機室部雜品格母ヲ取除

キ浴室トナシ各槽分離セシメ浴室ヲニケ所トナス

工事日子二十日

入費概算金百六拾円

四 煙突改造

理由右ノ従来昇降装置ナリシモ昨年来既ニ該装置

置不工合ナリシ存目下修理ヲ要スシモ本艦ハ帆走装

置改正セシレ存ニ此際寧ろ固定改造ヲ要ス

方按従来昇降装置ヲ取除キ固定ス

工事日子十四日

入費概算金八拾円

海軍

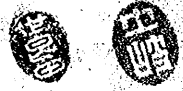
第五二六七

1374

軍令部長

第一局

主事



校合

淨寫



發付

十二月廿七日



廿九年十二月 日

主務

立案者

大臣 次官



軍務局長

第三課長

第一課長

課長

經理局長



指令案

横領第四五三七号ノ二軍艦和泉アンカーがビツト新設及シートアンカー一挺廃除ノ件認許ス
昭和三年九月十七日

海軍

横濱 四五三七號ノニ

第三課

和泉アヒカーダビット新設及ヒートアン
カー一挺除方上申

軍艦和泉アヒ

國海製鋼會社

其都度后橋ノテリツクレツ取外ニ是ツ前橋ニ
世不置ニ鋪ノ据敷方ニ使用スル都合ニモテ頗不便ノ
方法ニ有テ依テ別試面通リ「ホリスホリ」中
間ニ橋立ノ如キ「アヒカーダビット」一個ヲ新設シ「バ
コリアヒカー」揚方ニ専用シ而シテ「ヒートアヒカー」揚方
ノ際ニ従前ノ通り「テリツク」ヲ使用スル事トセハ艦ノ

1375 1376

海軍

積算 四五三七號

第三課

和泉アヒカーダビット新設及ヒートアン

カー一挺廢除方上申

軍艦和泉アヒカーダビット新設方同艦長

請求ニ付 検査セシメテ 候處 同艦ニハ 同アヒカー

二挺「ヒートアンカー」ニ挺附付有テ 揚錨ノ際ハ 何

レモ 其都度 后橋ノ「テリツク」取外シ 是ツ 前橋ニ

仕不置シ 錨ノ搭載方ニ使用スル 都合ニモテ 頗不便ノ

方法ニ有テ 依テ 別試置面ニ通リ「ホリスホリ」中

間ニ 橋立ノ如キ「アヒカー」デビット「一個」ヲ新設シ「ハ

コリアヒカー」揚方ニ専用シテ「ヒートアンカー」揚方

ノ際ハ 従前ノ通り「テリツク」ヲ使用スル事トセハ 艦ノ

海軍

1376

1375

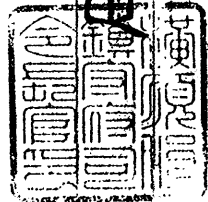
海軍

豫擬上便利期十カラク就テ前記シートアノカ
 ニ挺ノ内一挺除却スルモ其支ナキニ付是ヲ廢除スル片
 ハアノカノデビツト新設ノ為メ増カスル重量ノ復是
 相償ヒツリノ点ニ於テハ別ニ其邊無ニト存
 後條右チビツト新設ノ事ニシトアノカノ一挺廢除
 方術認許相成度此致及上申候也

豫買金千九百五拾圓 日子六拾日

明治三十九年十二月十三日

横須賀鎮守府司令長官 尾崎 相浦純通



海軍大臣 侯爵 西郷 從道 致

1378

五三九

軍令部長 

第一局 

主事  

光緒二十九年正月 日

主務

校合 

淨寫

發付 

二十日 

大臣 次官 

軍務局長 

第三課長 

第二課長 

第一課長 

立案者

課僚 

經理局長 





指令案

橫鎮第四五三四号 軍艦和泉重砲原庫及火薬庫
外一庫改造ノ例認許ス

明治二十九年十二月廿一日

海軍

横領第 四七二四 號

第二課

印

和名 砲彈庫及大基外三庫改造ノ上率

軍艦 和名 砲彈庫及大基外三庫改造ノ上率
 自中西海軍隊司令長官及司令官ノ上率修理ノ係工
 事ノ其ノ時甚成致非外其内未済ノ分潤查
 也又其別付三庫必要ノ上率修理別付高向
 同面ノ製白室格内

横領

梅津大佐侯志尉西那近區内

豫丹丹屋五百圓 日子 辛日

海軍

軍艦和泉

一重砲彈庫及火薬庫改造

右彈庫及火薬庫ハ装置不完全ニシテ多数ヲ搭載スル能ハサルニ付前部后部共別紙甲乙箇面ノ通り改造ヲ要ス

豫算金四百廿四日 日子五日

一火薬庫彈庫燈火室改造

右燈火室ハ后部飛機室ノ下ニ在テ空氣ノ流通悪ク火力保テ難ク且至急ニ点火スル能ハサルニ付乙箇Aノ通り改造ヲ要ス

豫算金八拾四日 日子二十日

海軍

軍艦大具工事雇書

船体部

修理

一 突火救急浮標 1 個 新規

一 貳所用シンドホンガ 貳台 修理

一 水罐付属諸ゴツク 1 回 轉不具合ニ付修理

一 下支下用厨付属品及水罐継續ノ銅蛇管 破損ニ付修理并ニ

蛇管管制衣造

一 ホツクスル及下甲板 填材

一 カットホールカクホールニローラー 修理

一 各所 スライスルバルブ 閉塞石具合ニ付修理

一 兩舷門 梯子付属品 共 破損ニ付 修理

一士官用厨修理

一膳部第一區舷窓ニ覆ヲ修理

一前部火藥庫扉湾曲トナリタルニ修理

一走貳番食卓修理

一艦橋上装置ノテシガラコノ付属点燈不充方ニ修理

一令所海図箱硝子破損ニ修理

一右舷天窗カエ破損ニ修理

一士官室(中)暖炉付属品修理

一両舷窓追込用塞不具合等金物カエ等ニ修理

一三四番食卓衣服箱修理

一舷水壁ゴム破損ニ修理

一錨用クランク修理

一鍍甲板下右舷ニ在リタル場所修理

一 船鎖用より修理

一 守燈棚室修理

一 前後部バネ修理

一 銃鏡棚破損修理

一 小銃棚破損修理

一 彈藥庫鏡前修理

一 前部第一梯子修理

一 敷止鎖掛金修理

一 飛ぶアメントアメント破損修理

一 釣床アーク修理

一 准士官則石具合二寸修理

一 カウンタニ氏ホニカ三台手入

一 流し場ハントホニカ破損三寸修理

一 ウィンドラス修理

一 カウンテングキキ一カ蓋土尾個

一 発電機室修理

一 一端舷用アキールトラ内舷両側修理

一 外舷鍊索取替

一 各所フライエヒ滑車及具台修理

一 二三番砲門扉扉閉不具台修理及該自属金物破

損ノケル修理

一 各食庫棚金物修理

一 各掛場修理

一 士官室用西洋電扇修理

一 上甲板填敷

一 下士以下用取付衣版箱ト舷板ト接合目、舷板ト張付

一 賄所棚 動搖等及通風管修理
 二 連射砲 弁之蓋等室洗掃杖柱柱修理
 一 一 厠内 鑊申板ノセメント剥落ニ付修理
 一 フイユエタボットニ注油孔修理
 二 三 省砲 仕衣置圃板ニ漏水板修理
 一 一 前部 鑊申板上四角ニクリート修理
 一 下士以下 用便所修理
 一 一 底 部 タリ螺旋 形ノ屑屑金物修理
 一 一 外 部 吃水以上等ノ申板以上ノ鑊 部 錆 腐 上 蓋 等
 一 一 水 度 白ペンシカ度塗り申申板ト申申板間等ノ諸金
 一 一 庫 及 洗 罐 器 械 室 等 凡テカ度塗り石炭庫等
 一 一 水 内 錆 腐 上 蓋 等ニカ度塗り
 但 水 内 之 板 下 等 他 木 部 下 等 見 鑊 部 錆 腐 等 除 却

章在機物修理

水罐状の置置る内筋セメントの此処置方

浴室用ボンド鋼蛇管破損ニ付取替

右端船身クリート破損ニ付修理

右の舷外機塔此のアルテグラフ破損ニ付取替

此の貫通管方おるの管を丸形のものに

改造

認許済 一田村置塔狭隘加之煙筒を接近して火災ノ

患了るに用上下板の改造

一前部甲板椅子并に下甲板椅子は取置換

所在を来より三ノ不便に付改造

此の取替は右舷の甲板を

認許済

一 船部 鏡甲板下面艦ニ新規窓扉設ニテ好

認許済

一 マーシマス上、シリクナルヤード等ニ付屬ノ船具及アロツク等

一新規取付

認許済

一 キルミスト、現在ノキールヤードトワカスルヤード分

ルニヤード取付シケルニヤード、ヨシケナルヤード、及び

直シカフ等トワカフ付屬ノ船具等新規取付

認許済

一 船甲板目今取付船機取付ト共ニ全船上ニ船機

一新設

認許済

一 主計長室及海士官宿舎室上中間ニ主計事

務室一新設

認許済

一 後力轉飛機取付

一 式力機金三子子百五五五五五五五

新設

機 關 部

修 理

一 汽筒カバー取外しピストン抜き及びピストンバルブ及びスライド
 バルブ抜き汽筒スチームポートスティー低圧ノ合六
 本中壓ノ合六取外しバルブシート及びバルブ針仕
 上汽筒内を砥石摺り上ピストン取外し
 低圧中一陸後ノ合六を陸試験等
 一 クランクアラスおよびワイトを入替りクランク摺り合六個
 一 コンデンサーノ合六抜き洗滌全一水試シテ
 ユーア取外し上全体水試等
 一 コンデンサーメンホール等取外し
 一 フロート等部個掃除し上系所取外替り豫備系

瓜殻式百五十枚備付ホース表太巻個新規取付
 一エシジニカウンター新規取付式個
 一キニカストニパンパスロンドル修理巻個
 一リシクモーシヨニスウイテロワシ六個新現リシク摺合旧アロ
 ツリライナー取付六個
 一ヨシバウシトケーシ取替巻個
 一カイトトエー及パー摺合中心取替止取付六個
 一クロスハットホワイトメタル入替六個
 一低圧全スライドマンブイクイリブリーキエーフリシク摺合式個
 一エーヤポシカ名スハットガラス六個取替おシカ内巻
 一換者メシヒードボシカマンブ取替エーヤポシカクラシク
 シヤフトガラスホワイトメタル入替六個
 一トシキーエシシライルコック六個修理ドレインパイカ取替

立込キート面皆二年後備ホシカワト新規カマ

及ロストン取放シ掃除ノ事ニモなる

セリトリヒーカシホシカクニスヘツプラス取放ホシカ取放

掃除ノ上取放取シカなる

ドシキーホシカホシキアゲーシ取放取放

一前函鏡板上取放取放アワヤボウクス上部板中五尺

長七尺五寸取放取放取放取放取放取放取放取放取放

件出来ノ事ハ他方

但ステーキエナア黄銅管切是ニ支給最長イ

ステー中央ニテ健全ノ一

ハワヤボウクススクルーステー一悪キ分取放取放取放

新規望金銅板取用スル

一右舷流籠火焚口申肩板内部長三尺五寸中

の天切銅を教掃降口が個所新設在松
機深底教掃降穴ニケ所新設

一 安全弁スプリング試シストツカバルブブアーフコツク午丑キ

バルブブアーターゲージコツク摺合及取付直しぬ

一 汽罐ツリダ注入者沸シ汽罐出来ノ上外壓試

験機ノノイの個々

一 汽罐 フラインバルブスロントル取付直しぬ

一 汽罐 アスベスト上の除パシ塗替アスベスト出規

塗替の個々

一 汽罐 フロアブリックの取替

一 汽罐 オーストンの個々取替

此の部金を方田子とるに替るの取替

供覽

次官

軍務局長

英使第 五三 編入之 第二原

留

第三編

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

大島修理之事一及付積生

海軍大臣侯爵西郷從道殿



海軍

甲府大島追加工事原簿

經常費支弁

和体部

修理

一 上梁上座為精掃へて走らして二、三各走公修

一 船尾曲り毛掃新設切部ト平カナル當金シテ

一 キール、張舟有之ト毛板取外し厚十六寸、一時モシテ新規張替并、
アールスキール破損迄修理

一 大葉庫系浦葉庫下内張 經張并天井張板取外しセト取調

一 大葉庫系浦葉庫下内張 經張天井板等取外しセト陸替へ使用し

得ラレ、丈と現在モトは用上在末由、取外し

以上ノ費金叁千九百四拾八圓拾五也

務 部

校合済

海軍

修理

一 入船修理に係る甚痛番に依りてスチムボイラの線よりホムバ

イア及エグダク修一現

一 上乗と舟橋一保室しトコウク及バムグ摺合

一 中座とリリカ一守金及スチム板取付金ケ所

ノ
以上ノ員金共千〇九拾四系五拾七カ也

外
言計金五千〇四拾四系七拾七カ也

金共千四百五拾七系〇四系八カ也

当座部より貸付金と材料代金及全部
ノ外行止金檢査費

内訳

金共千四百五拾七系〇四系八カ也

艦船費

金共拾系

經常費

2687

〇
一
五

主事



淨寫

校合



發付
由

三月
暮

年月日

主務

立案者

大臣
次官



軍務局長



第三課長



經理局長



第一課長



指令案

マニ

佐第六六五号ニ軍艦大島フォル及トツプマスト
ワップ改正ノ件一認許ス

明治三十九年三月廿五日

海軍

佐

五六五

第三課

軍艦大島ヲオム及トツ。フ。マ。ス。ト。ロ。フ。改正ノ件。

高申

本府所管軍艦大島艦長ヲオム及トツ。フ。マ。ス。ト。ロ。フ。改正ノ件。高申相受候間取調候處以前御備付ノオムトツ。フ。マ。ス。ト。ロ。フ。對シ過大ニ別記載ノ通り改正必要ト認メ候条御認許相成度此殿高申候也

明治二十九年三月十九日

坊世保鎮守府司令長官 柴山 文八

海軍大臣 佐賀野 西郷 從道 殿

追テ御認許。上。静。動。案。及。滑。車。表。改正。御。達。ニ。相。成。度。此。殿。副。中。候。也。

改正理由書

一 フォルトツプマストロープ現在一。二ヨリ、一處八九日
リニ改正

但シトツプマスト上ノロープヨリ、細、周用大ニシテ、使用
上困難ニハキ改正ヲ要ス

此ノ費用金拾月三、概ハ拾九、五拾ガ未矣
一 カントツプマストロープ、現在八九ヨリ、一處ハ三ヨリ

ニ改正

但シ前項同新

此ノ費用金拾月三、概ハ拾九、五拾ガ未矣

官戸第 四〇二

1400

海軍

主事
秘書官 村上

淨寫
校合 三浦

發付 海
十月廿日

印

年月日 主務

立案者

大臣 次官

軍務局長

第三課長

印

指在案

呉鎮第五八〇号ノ五軍艦大島豫備推進器新

製ノ件認許ス

明治三十九年十月廿日

吳鎮第五八〇號ノ五

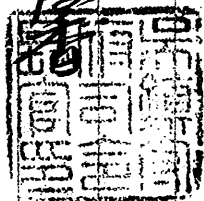
軍艦大島推進器新製工事佐世保鎮守府ヨリ
委批ヲ受ケ着手之義付上申

軍艦大島豫備推進器式個新製表方
佐世保鎮守府ヨリ委批ヲ受ケ着手
為致度候条御認許相成度此旨上
申仕候也

但本件ニ要ル豫算金八百叁拾圓工事日數九十日
間ノ見込有之候也

明治三十九年十月十四日

吳鎮守府司令長官曾壽井上良隆



海軍大臣候爵西郷從道殿

海

軍